

第42回消防救助技術四国地区指導会 概要

この指導会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素の練磨を通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、四国の消防救助隊員が一堂に会し、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、市民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的として、2年毎に四国の県都持ち回りで毎年実施しているものです。

四国4県50消防本部の消防職員約5100人の中から選抜された人命救助のスペシャリストである救助隊員約330人が集結し、陸上7種目、水上7種目において安全確実性と所要時間を評価するために日頃培った救助技術を披露します。



陸上の部訓練塔

【詳細】

名 称：第42回消防救助技術四国地区指導会

開 催 場 所：松山市市坪西町 松山中央公園

【陸上の部】 運動広場

【水上の部】 アクアパレットまつやま

開 催 日 時：平成25年7月19日（金） 9時30分～16時00分

主 催：全国消防協会四国地区支部

主 管：松山市消防局

参加消防本部：四国地区支部 50消防本部

参 加 人 員：出場隊員 約330人

運営要員 約200人

一般来場者数：約1,000人

※ 第41回（平成24年度）も同時期に本市で開催しています。

訓練種目概要説明

【陸上の部】

<ロープブリッジ渡過>

水平に展張された渡過ロープ20m（往復40m）を往路はセーラー渡過、復路はモンキー渡過する。ロープ渡過の基本的な訓練。

<はしご登はん>

自己確保の命綱を結索した後、垂直はしごを15m登はんする。災害建物への進入等、消防活動には欠かせない訓練。

<ロープ応用登はん>

登はん者と補助者が二人一組で協力し、器材を使わずに塔上から垂下されたロープを15m登はんする。

<ほふく救出>

三人一組（要救助者を含む）で、一人が空気呼吸器を装着して長さ8mの煙道内を検索し、要救助者を屋外に救出した後、二人で安全地点まで搬送する。ビルや地下街等で煙に巻かれた人を救出するための訓練。

<ロープブリッジ救出>

四人一組（要救助者を含む）で、二人が水平に展張された渡過ロープ（20m）により対面する塔上へ進入し、要救助者を救出ロープに吊り下げてけん引して救出した後、脱出する。要救助者を隣の建物等から進入し、救出することを想定した訓練。

<引揚救助>

五人一組（要救助者を含む）で、二人が空気呼吸器を装着して塔上から塔下へ降下し、検索後、要救助者を塔下へ搬送し、四人で協力して塔上へ救出した後、ロープ登はんにより脱出する。地下やマンホール等での災害を想定した訓練。

<障害突破>

五人一組（補助者を含む）で、四人が緊密な連携の下、一致協力して「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「濃煙を通過する」の基本動作により五つの障害を突破する。災害現場の様々な障害を想定した訓練。



【水上の部】

＜基本泳法＞

「じゅんか飛び込み」で入水した後、常に顔が水面に出た状態で、基本的な泳法である「ぬぎ手」と「平泳ぎ」でそれぞれ25mずつ泳ぐ。水難救助の基本的な泳法を習得するための訓練。

＜複合検索＞

マスク、スノーケル、フィンを装着し、スノーケリングで障害物（救命浮環）を突破しながら水中に沈められたリング四個を検索して、引き揚げる。水中の行方不明者の捜索を想定した訓練。

＜溺者搬送＞

二人一組（要救助者を含む）で、救助者が「じゅんか飛び込み」で入水後、要救助者（溺者）を注視しながら近づき、チンプールで確保した後、ヘアークャリーにより救助する。

＜人命救助＞

三人一組（要救助者を含む）で救助者が「二重もやい結び」のロープをたすき掛けにして要救助者の位置まで泳ぎ、要救助者をクロスチェストキャリーで確保し、補助者が救助ロープをたぐり寄せて救助した後、再び水没しつつある要救助者（訓練人形）を水面に引き揚げ、救助する。

＜溺者救助＞

三人一組（要救助者含む）で救助者と補助者の二人が協力して浮環にロープを結着後、補助者が浮環をプール内へ投下して救助者が20m先の要救助者の位置まで搬送し、これに要救助者をつかまらせ、補助者がロープをたぐり寄せて救助する。

＜水中結索＞

三人一組で水中の結索環に、第一泳者は「もやい結び」、第二泳者は「巻き結び」、第三泳者は「ふた回りふた結び」のそれぞれ指定された三種類のロープ結索を行う。水中におけるロープ結索技術を習得するための訓練。

＜水中検索救助＞

四人一組で第一泳者が水面を、第二泳者が水中をそれぞれ検索し、水没している要救助者（訓練人形）を発見して水面へ引き揚げた後、第三泳者と第四泳者が協力して対岸の救出地点まで搬送し、救助する。

